

## 特集：入学

## 竜宮城

## 谷本 啓司（筑波大学 生命環境系）

ご入学、おめでとうございます。

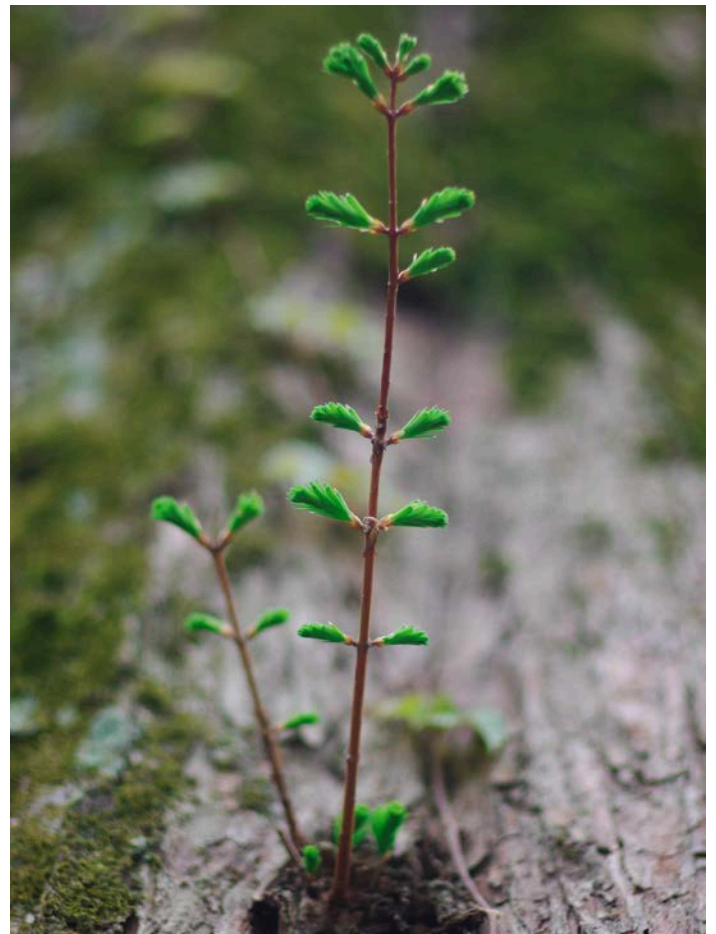
環境、ヒト、なにかもかが新しく、気持ちが高揚した日々を送っていることと思います。一方で、夜や朝に部屋で一人になると、すこし不安も感じるのではないのでしょうか。私も筑波大学出身ですので、25年以上も前に学生宿舎の一室で同じ思いをしていました。当時は、携帯電話なんて便利なものはなく、遠く九州の両親に電話をかけるために、宿舎3棟に1台くらいの数しかない公衆電話ボックスの前で小銭を握りしめ、まだ肌寒い4月の寒空の下、自分の順番が来るのを小1時間も待っていたことを覚えています。ただ、順番の列の中で新しい友人ができることもあり、自分の部屋から簡単に連絡がとれてしまう今より良いこともあったのかもしれない。

ところで、「晴れと曇」って知っていますか？入学後の新歓イベントのあと、ゴールデン・ウィーク、スポーツ・デイ、やどかり祭、夏休みと「非日常的」な行事が続きます。新生活のスタートのための書類の準備・手続きなどでも大わらわでしょう。これらはいわば「晴れ」の日々です。この時期を過ぎると、朝起きて通学し、授業を受け、人によってはこれにサークル活動やアルバイトが続くという1日を黙々と繰り返す落ち着いた日々が訪れます。これが「日常的」な「曇（ケ）」の日です。

これからの大学生活の中で、晴れと曇の割合はひとりひとり異なります。大学時代に新たな経験を積むことは重要です。特に生物学類では多くの学類行事もありますので、大いに参加するのも良いと思います。しかしながら、曇の日こそが日常であることを忘れないで欲しいと思います。色々なイベントに参加せずとも、自分の将来を見据え、あるいは、自分の今の好奇心を満たすために他の人よりも多く図書館に通うなどといった日常を大切にするというやりかたもあります。しっかりした日常があるからこそ、たまの非日常が楽しいのです。地に足をつけた日々を送ってください。

また逆に、晴れの日が続き、強く充実感を持ってしまっている場合、非日常から日常へ戻る際に寂しさを覚えることがあるようです。あるいは、日常に戻った際に、他の人が先に進んでしまい、自分だけ取り残された様な感覚を抱くこともあります。自分の状況をしっかり把握し、時期が来ればちゃんと曇の日に戻ってください。大学はそんなに楽しいことばかりではいけません。日常を継続することを大切にしたいと思います。

以上は自分自身、あるいは人から聞いた体験談をもとにした、学生の皆さんへのアドバイスです。ただし、オリエンテーションの時の皆さんの様子を見ていると、少し消極的なのではないかということのほうが心配でもあります、、、



Contributed by Keiji Tanimoto, Received April 20, 2012.

Revised version received April 27, 2012.